マンガ地獄変2『男魂（だんこん）マンガ高校』ライター泥酔座談会

植地毅・宇田川岳夫・吉田豪・大谷クン（司会・相良好彦…水声社）↙

昨年9月に発売され、「こんなモン出して大丈夫なのか？」「これ書いた奴絶対ケガさせてやる」「初版と再版で一部内容が大幅に違うのはナゼ？」など、各方面で話題を呼んだ奇書『マンガ地獄変』（水声社）。懲りもせずに第二弾が出るというので「コイツら何モンだ？」という興味もあり、ライターの座談会を企画した。「ちょっとアルコールが入った方が舌が滑らかになるんですよぉ」などとフザケたことを言いくさるメンツに、小誌編集部ではビールまで差入れ。まずは本誌5月号でも問題となった田口トモロヲ氏の「『地獄変』のボンちゃん殴ってやる」発言についての「地獄変」編集部サイドの言い訳からGO！

梶原サンプリング・ワールドの快感

ガロ　一応ガロ的には、最初に本誌5月号で田口トモロヲさんにご指摘頂いた『マンガ地獄変1』の件について語っていただきたいんですが。

相良　えっ？　ああトモロヲさん。あの原稿を書いたボンちゃんってライターなんですが、ちゃんとした単行本に書くのは初めてでですね、本人に伝えましたらですね「ホント済みませんでした」ということで、この仕事を最後にライターから足を洗って田舎に帰って人生一からやり直しますので何卒お赦し下さいということでした。

ガロ　トモロヲさん、そういうことらしいです、って誰に言ってるんだ。

相良　じゃ、とりあえず始めましょうか。

植地　いやあ、××は××ですね。

ガロ　しょっぱなからいきなり使えないんですけど。

——以下5分間の会話自主規制——

吉田　（中略）……でもね、梶原イズムは死なないんですよ。

——さらに5分間の会話自主規制——

相良　で、全然使えない話はいいんですけど…（笑）。

宇田川　（さえぎって）でね、××が×××××……。

植地　まあ、この辺にしときますか。

相良　とりあえず梶原の話をしましょう。今日は皆さん、梶原のマイナー作品をお持ち頂いたということで、まず吉田くん行きますか。

吉田　梶原の野球モノの話から行きましょう。

大谷　梶原と言えば『巨人の星』ですが…って。

吉田　そんなのどうでもいいんですよ。僕が今話したいのは『未来人王』について！　これは王さんが未来人だったって話で。

宇田川　SF！

吉田　SF。それがホームランの秘密なんですよ。未来人が（笑）。絵は古城武司。

宇田川　おお、懐かしいコンビ。

大谷　（内容を読みつつ）「未来人の超能力を使って大打者となった巨人の王選手。その秘密は…」

相良　あ、それ中岡俊哉先生と一緒ですよ。中岡先生、王選手はエスパーだって言ってましたから。「じゃなきゃ800本もホームラン打てない」って。

吉田　内容は、ある日突然王ちゃんが、ケガしてからかな…キャッチャーのサインが見えるようになるんですよ。ESP能力で。必ず危機に陥ると能力を発揮するんです。で、予知能力があるんですけど、これは「未来人の予知能力と言える」って…いきなり「未来人」って自分の中で判断されちゃう（笑）。

植地　もうオレは未来人だと。

吉田　超能力が使えるのは超能力者じゃないんですよ。未来人（笑）。

植地　これユリ・ゲラー以前ですか。

吉田　昭和39年です。全然以前。はっきりしてるのは、梶原は『巨人の星』の時点で野球を知らなかったんですよね。だからこの頃って何も知らないんです。知らないからこそ好き勝手なことを書けたんですよ。

大谷　「王選手」って人しか知らないわけですね。

吉田　ええ。ワンちゃんって何か凄いからたぶん未来人なんじゃないかという（笑）。で、未来人の想像図が描いてあるんだけど、未来人は頭が大きいんですよ。で頭がデカイとグラグラ不安定になるわけですよ。

宇田川　あ、大体分かってきたぞ。

吉田　不安定にすれば打てる！　だから一本足！（笑）

大谷　そうだったのか一本足！

吉田　そうなんですよ。皆たぶんいまだに気付いてないんですけどね（笑）。一本足が未来人と同じ状態になる。すなわち「未来人打法」。で、凄いのはこの頃っていうのは「この作品はフィクションです」って断り書きがないんですよ。だから最後のオチも「未来人の超能力は遂にその能力をプロ野球に生かして、世界記録に向けてこれからもたくさんのホームランを打っていくことだろう。未来人打法で」って…めでたしめでたしで終ってるんですよ（笑）。違うだろうって（笑）。こういう梶原の破壊力。この頃の梶原っていうと、『忍者柴田』とか『二刀流力道山』、『戦艦豊登』とか謎のタイトルの作品がたくさんあるんです。

植地　強そうなだけ（笑）。

吉田　「豊登は戦艦である」みたいな（笑）。「柴田は忍者だった」とか。

大谷　そのまんま（笑）。

吉田　とにかく梶原の野球マンガっていうのは、知らないからこそ出来る破壊力が凄かったんですよ。

大谷　ルールに縛られてないわけですね。

吉田　ルールどころか何も知らないわけ。

宇田川　それはルールを超越してるって言いましょう。

吉田　だから、これ『どあほう一念400勝』っていう、これはカネやん（金田正一）のマンガなんですけど。

宇田川　あっ凄い！　菅原卓也。マイナー！　「漫画ゴラク」掲載！

吉田　これはカネやんの自伝のようで実は梶原の話なんですよ、単に。内容はというと、カネやんは貧乏なんですよ。オヤジが肉体労働者で。セックスする時には兄弟みんなで外へ出てってみたいな。「今日は祭やったな」っていうのが合図なんですよ。だからガキは外へ出て行くわけ。外で星を見上げたりして。

宇田川　「父ちゃんと母ちゃんの祭なんや」って。いいねコレ。

吉田　まあそういう、アンダーな人というか、それがいつか俺もビッグになってやるという…。個人的にヒットだったのが、カネやんは銀座かぶれなんですよ。めかしこんで銀座に行って、東京の女にかぶれたりするんですけど、その時に、女優の原節子の撮影を見るんですね。

植地　それどっかで見た。『男の星座』で読んだよ（笑）。

宇田川　シーン使い回し。

吉田　で、「だが断じて俺は憧れの目で映画のロケを見物する人間なんぞではおらんぞ。天下の大スターをこの胸に抱けるだけの男になったるわ」というセリフが…。

植地　誰かと一緒ですね。

吉田　その他にもカネやんがトルコが大好きとか。

大谷　包み隠さないですね（笑）。

吉田　トルコで燃えながらも、「俺はトルコで燃えてる人間じゃあらんで。女優を抱かなアカンのや」と。

大谷　一発出してから言うわけですね（笑）。

吉田　で、このコマが大好きなんですけど、朝マラが起たないカネやんがサウナで出会ったオヤジに「深呼吸して背筋を伸ばせば朝マラが起つ」と言われて実践するんです。で、このコマなんですよ。

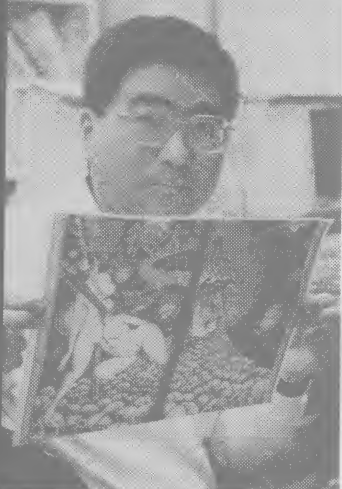
大谷　「軟化症気味だったセガレが朝からいかめしく直立不動ではないか」って（笑）。

吉田　股間が燃えてるんですよ。

宇田川　いやこれはヨガですよ。グンダリーニが覚醒したんですよ。このポーズもヨガのポーズですよ（笑）。

吉田　梶原は、格闘技マンガ以外の、野球マンガを書く場合何も知らないからとりあえず自分を投入しちゃったんですよね。

相良　じゃあ宇田川さん、梶原のハングリー・マイナーワールドを語って下さい。

宇田川　ハングリー梶原というとやっぱり『大魔鯨』じゃないですか。川崎のぼるが絵を描いてるんですけど、『カムイ伝』とちょっと近いような設定もあるんです。で、何が言いたいかというと、梶原とマージナルな世界。虐げられた人々…ハンディキャップを扱った作品って多いですよね。『男の条件』とか。これは当時梶原が希薄な人権意識しかなかったってことよりも、より貧困ってものが身近にあったってことだと思うんですよ。大体ジョーだってドヤ街で暮らしてますしね。タイガーマスク、孤児。星飛雄馬、長屋。『愛と誠』の誠なんかね、山で暮らしてますよね。あと梶原作品は、社会的なハンデ以外に、身体的に欠損してる人が出てきますよね。

植地　師匠は欠損してなきゃいけない。

宇田川　師匠は神だからね。大利根一鬼、丹下段平とかね。色んな人が民族学的に捉えてますけど、そんなこと以前に神を描いていたと。で、梶原作品のテイストが韓国のマンガに影響を与えたと思うんですよ。一番大好きなのが『外人球団』っていう、87年に映画が日本で公開されて、ビデオにもなってるやつなんですけど、梶原＋アパッチ＋アストロっていうノリなんですよね。そういう梶原の持つ、貧困から脱したいという強烈な上昇志向とか、貧困を避けずに直視する描写力っていうのが、社会主義的リアリズムより凄いんじゃないかと僕は思うわけです。

相良　ハンディキャップド・シチュエーションを乗り越える常軌を逸脱した努力でしょ。

宇田川　言わば「超努力」ですよね。グルジェフの世界。

相良　で、世界の事象を全て自分の都合のいいように解釈する自己肯定力。

宇田川　何かこう、世界が変容するんですね、彼の中で。だからカネやんの作品も、ストーリーの根底のところに『巨人の星』の自己模倣的なところがあって、自分で自分の作品をサンプリングしていくっていうね。

植地　野球マンガは大体そうですね。

宇田川　そうですね。で、『未来人王』にしても、本人のハンディキャップを逆用して利点にして、一本足打法を考え出すわけですね、そういう逆転の発想みたいなのは昔からどの作品にもあって、それは色んな所でまた、短編のアイディアって後でいくらでも出てくるんです。ネタがバリエーションを変えて出てくるっていいですよね…使い回しなんて言いませんよ（笑）。

相良　言ってるじゃないですか（笑）。で、この辺で梶原マイナーワールドからちょっと下った『ボディガード牙』シリーズや『人間兇器』なんかのダークワールドの話をいきますか。

植地　『人間兇器』は一日一回ぐらいは思い出しちゃうほど強烈なんですよね。でも、絵も強烈じゃないし、ストーリーもどっかで読んだことあるし、使い回しの連発なんですけど、どこが面白いかって言ったら全梶原作品のサンプリングなんですね。正確にいうと『男の星座』の方がサンプリングとしては集約されてるんですが、『男の星座』は持ち直してからの作品じゃないですか。じゃなくて、もう狂気の道まっしぐら、マッドマックス、インターセプター状態で書いてる『人間兇器』の方が、やりすぎなんですよね、ハッキリ言って。どこがサンプリングかと言うとプロレスも入ってるし、空手も入ってるし、ルチャ・リブレも入ってる。そもそも『ボディ牙』が『空バカ』の焼き直しなのにさらにその焼き直しだから、もう凄いですよね。原形を留めてないですよ。梶原作品の全てを、原形留めないでゲル状に押し込んだような作品（笑）。だからといってガロの読者に『人間兇器』を読めと言ってるわけじゃないんですが。読んで何か残るかといえば何も残らないんですよ（笑）。

吉田　避けた方がいいというアドバイスですかね(笑)。

相良　定食屋とかに間違ってある場合があるでしょう。

吉田　例え全巻揃ってても間違っても読むなと。

相良　『美味しんぼ』を読めと（笑）。

大谷　『かりあげクン』を読めと（笑）。

植地　ただ、宇田川先生とか土屋さん(『世紀末倶楽部』編集長）とかそうだと思うんですけど、『ボディガード牙』にトラウマ的な、セクシャルな部分で惹かれちゃった人もいるわけですから。

宇田川　僕はちょっと違うんだけど、読んでてドンドン気分を落ち込ませてくれるってところがいいじゃない。ダウナーにしてってこう……『カラテ地獄変』とか。

植地　もう「地獄」が「変」ですもんね。

宇田川　何かキメて聴くと、ノイズみたいな音楽も気持ちよく聴こえるのと同じで、あれって読んでるだけで頭の中がおかしくなってくるでしょう。で、梶原先生ってそういうサイケな事象好きじゃないですか。『カラテ地獄変』の中にマンソンそっくりのが出てくるでしょう。名前が「モンスーン」って言うんです（笑）。ハリウッドの人気女優のリンダ・キャロンってのを襲って、その団体がクルセイダーズっていうんですけど、十字架に掛けて殺そうとするところを、キャロンにあしげにされた牙が助けに来てモンスーンを殺そうとするんだけど殺せないんですよ。自分の中にある負の部分をモンスーンの中に見てしまって。

植地　梶原先生は、その当時カリフォルニア周辺に起こっていた新興宗教ムーヴメントまで自分のものにしちゃったんですよ。

吉田　まあ当時週刊誌を賑わしてた記事を完全に模倣してたって、それだけなんですが（笑）。

宇田川　というのは「週刊サンケイ」ほどマンソン事件を報道した雑誌はないんですよ。だからサンケイで載ったっていうのは意味があるんですよ。

相良　掲載誌が送られてきてたっていう…ただそれだけ（笑）。

植地　パラパラ読んでて、おっと、今カリフォルニアが凄いことになってると。だから梶原先生のダークワールドって、当時読んでても面白いし、今読んでも面白いんです。ただ、今読んで面白がる人は問題あると思うんですけど、やっぱり（笑）。『人間兇器』にしても、最初の話と後半が全く変わってきてる。この先この主人公がどうなるかっていうのが本当の意味で分からないんですよ。予測全くつかない（笑）。良くあるようなトーナメント式の、次はこの敵と戦うみたいな予想は全く立てられないんです。次の週にはどこ行ってるか分からない（笑）。この前までメキシコにいたのがいきなり日本に帰ってきてて、しかも刑務所入っちゃっててそこの看守を犯しちゃったり、あるいは本人が犯されちゃう（笑）。

吉田　ちょっと女になったりとかね（笑）。

植地　一瞬オカマになっちゃう。キンタマめり込んじゃって（笑）。そんなの予想つきませんよ読者として。ダークといえばダークなんだけど、でも基本的に『人間兇器』の御影義人の中には、すごい根アカな部分があるんです。時には女になっちゃっても平気という（笑）。

相良　男の股の「人間兇器」。

植地　男には三本、足があるという思想でいってますからね。自分が最後に書いたオリジナル・ストーリーがそれなんですよ。それが凄いという。

宇田川　やっぱり『人間兇器』はエキストリームだったと思うんだよね。絵の個性のなさが逆にいいんだよね。中野先生の絵。

植地　でも不思議なことに梶原先生って破滅とかホラーっていう要素ないですよね。当時ノストラダムスとか来てたのに、梶原先生は生涯終末思想には手を付けなかったでしょう。あとホラーっていうジャンル。女を縛って浣腸するっていうのはホラーとは違うし（笑）。

宇田川　基本的に霊って信じない。肉体なんでしょう。

植地　とりあえず生きてる間にカタをつけようという。

相良　確かに終末史観はないですよね。ハルマゲドンっぽいのって。

宇田川　でもキリストは好きだよね。

植地　キリスト好きでもファティマの予言なんかには行かない。

宇田川　いや、そういう異端がダメなんだよ。宗教的には正統派なんだよ、きっと。

植地　まあ、何が言いたいんだかよく分からないんですけど（笑）。

宇田川　要するに梶原という人間は語り尽くせないということなんだよね。

植地　前もこのメンバーで四、五時間話したのに、まだこんなに語ることがあるんだからね。関係なさそうな人でも、辿っていくとまた梶原にぶつかるという…「また梶原だった」って（笑）。

相良　『地獄変2』で番長モノをやっても結局、梶原に戻ってきてしまう、やっぱり『愛と誠』になっちゃう。

左から『男旗』『野望の王国』『夜の料理人』（モデル／植地毅）

国会図書館で2万以上かけてコピーした『聖徳太子』（モデル／宇田川岳夫）

左から『未来人王』『目裂け女』『どあほう一念!!400勝』（モデル／吉田豪）

左から『高橋名人物語1』『高橋名人物語2』『高橋名人物語3』その他名人本1冊（モデル／大谷クン）

▲もはや単なる飲み会か⁉

植地　迷路のように（笑）。いやあ、梶原ってホントにいいモンですね。と、締めておきますか（笑）。

みだらな開発計画は中止‼

相良　じゃあうまくまとまったところで、梶原からちょっと離してですね、もうちょっと違うところを行ってみますか。

吉田　空手からちょっと引っ張りたいんですけど、好美のぼるが空手モノを描いてるんですよ。『霊感児』。

大谷　いきなり好美のぼるに来ますか（笑）。

吉田　74年に描かれてるんで、ちょうど空手ブームの時の作品です。描写はかなり妖怪チックですが…まあ作品自体はどうでもいいんだけどね（笑）。

大谷　やってることは手相シリーズと変わらないんですよね。

吉田　だから、その時々のトレンドをどうやって作品に取り入れていくかということなんですよ。これ、口裂け女が流行ったときに出したやつなんですけど、その名も『目裂け女』（笑）。

相良　ネタの仕入先が週刊誌レベルですね（笑）。

吉田　既に口裂け女は好美先生、描いてたんですよ。人気があったんで第二弾を描こうとしたら、結果は『目裂け女』（笑）。しかも良く見りゃ裂けてないんですよ。えぐれてるだけ。

大谷　見返しの説明文凄いですね。「裂け女第二弾『目裂け女』が出たよ！」（笑）。

吉田　出すなよ！（笑）

大谷　「裂け女第二弾」って「裂け女」シリーズになってる（笑）。次はどこ裂けるんだよ。

植地　「股裂け女」か（笑）。

吉田　問題は裂けるって意味を分かってないとこですよね。目がえぐれてるだけで（笑）。口は裂けてるんですけどね。で、いいのは口裂け女の路線なんで、訊くのよ。「この目、きれい？」って（笑）目なんかねえじゃねえか！　ないのに何で聞くんだよオイ（笑）。オープニングのセリフがまたいいんですよ。

大谷　「闇。何が隠れているか、何が出てくるか分からない闇。世の中で一番怖いのは闇とバカだという」…。

吉田　なんでだよ‼　「闇とバカ」！　何を訴えたいんだ…全然分かんないでしょ（笑）。

相良　好美先生は凄いよね。誰の影響も受けてない。

植地　そのかわり誰にも影響も与えてないですよ（笑）。

吉田　あとは矢乃藤かちすけ先生を持ってきました。

相良　ギター王。作品の最後に自作曲の楽譜が出てくる先生ですね。

吉田　ちなみにこれ、奥付の上に訂正文が入ってました。楽譜にギターのコードが書いてあるんですけど、「コードが間違ってました」って（笑）。「演奏ファンの方ゴメンね」っていねえよそんなヤツ！　根がフォークの人なんで、セリフがいちいちたまんないんですね。学園ものなんですが、ハイキングかなんか行くっていうシチュエーションで「どうすれば自然と調和出来るかを考えて行動するのがナウでハートのあるヤングなのだ」っていいでしょう（笑）。で、月河先生って先生がちょっとガケから落ちちゃうんですよ。

大谷　「ちょっと落ちちゃう」って（笑）。

吉田　落ちちゃうわけ。で、みんなショックを受けるんですよ。「ミスター・ムーンリバー」のニックネームで生徒の人気を独り占めする月河先生にもしものことがあったら」…って長いよお前！　「月川」だから「ミスター・ムーンリバー」ってお話の進行と全然関係ない（笑）。で、お話はサボテンが人間にリベンジするっていう話なんですけど、問題はここなんですよ。「みだらな自然破壊にこれ以上がまんできない」ってセリフが出てきて、これはまあ、誤植かなと思うじゃないですか。で、問題はその後「国会はみだらな開発計画を中止することにした」したってもう一度みだらって言葉が出てきて、誤植じゃないんですよ。

相良　かちすけ先生的には、みだらでよかったんだ（笑）。

吉田　それだけなんですけどね。

番長マンガの行方

相良　はい、じゃあそろそろ番長モノにいきますか。とりあえずマンガ地獄変第二弾は『男魂（だんこん）マンガ高校』（6月下旬発売）というタイトルで、男の勝負ものマンガを大フィーチャーするんですよ。とにかく少年マンガってあらゆる設定で勝負するでしょ。で、基本コンセプトは「ダンコン・コミックス・フォー・オール・キング・タマタマ・オーナーズ」って感じです。「ダンコン」は「男魂」、「キング・タマタマ」は「王者の魂」と受け取って下さい。で中心はやっぱり、「学園抗争」もの、つまり番長モノでまとめるんですが、植地くん、その辺を。

植地　そうですね。――（中略…総論は『男魂マンガ高校』を見ていただくとしてここでは略）――だから番長はどこへいったのか調べたんですけど、結局絶滅したんではないかということなんですけどね。

宇田川　でね、宮下あきら先生って『男塾』で政美構図パクッてますよ。『聖マッスル』に出てくる下からのアオリとか。それから江田島平八なんて女犯坊そっくりじゃないですか。

植地　そりゃ違いますよ！　全然そっくりじゃないですよ。メチャクチャ言ってるなあ（笑）。

宇田川　巨大な敵を倒すっていったらふくしま政美がやってるじゃない。

相良　アンタ違うよ！　大昔からあるよソレ（笑）。…ええ、総論はそんなところとして、番長もので一つミュータントがあるんですよね。それが真樹先生の『ワル』だと思うんですけど。今までの「殴り合って分かりあえる」みたいな番長ものから、いきなりハードボイルドなものが出てきたという感じがするんですよね。

植地　そうなんですよ。『ワル』だけは異色ですね。

吉田　でも、あんまり『ワル』について話すことはないな、僕は。

相良　そ、そんなぁ…せっかくフッたのに…（泣）。

吉田　今日は『ワル』の話をしに来たんじゃないし。

植地　ヒデエなあ、この人（笑）。

宇田川　一言で言うと、あれは真樹先生の自伝。

植地　梶原先生が「あれは弟の自伝である」って、勝手に言ってるんですけど（笑）。

吉田　良く読みゃそうじゃないんですけどね。

植地　ホントに自伝だったら相当マズイわけですよ。

吉田　相当人を殺してますよね（笑）。

植地　だって、「氷室くん、そんなことしちゃいけないよ」って優しく寄ってくる教頭先生を木刀で殴っちゃったりするんですから（笑）。

吉田　要所要所では自伝的要素はあるんですけどね。

植地　でもタイマン張った相手と仲良くすることは絶対ないですよね。

吉田　とにかく、相手をカタワ者にするか殺す（笑）。

植地　氷室を好きなんていう女生徒が現れるといきなり強姦して、そのままハラませて自殺に追い込んで、葬式に現れて遺影を焼いちゃうという。

吉田　いいとこまるっきりなし（笑）。

大谷　まさに「ワル」（笑）。

植地　氷室の愛し方といえばそれまでなんですけど。

吉田　問題はあれがあの時代に何で人気出たのかということですよね。

相良　あれ「マガジン」で人気あったよね。

吉田　谷隼人主演で映画化までされましたからね。

宇田川　番長もので変なものって他にも色々ありますよね。

相良　小池一夫の『二千年前の番長』！

植地　『二千年前の番長～古代人のウンコ』ってタイトルだけで震えるじゃないですか（笑）。ある学校に凄い強い番長が転校してきて、ヒロインが歴史研究会に入ってるからって、心を射止めたいがために二千年前の原人を研究するんです。スタジオシップの中でも異色作ですよね。

吉田　番長モノというと山松ゆうきちの『2年D組シリーズ』に梶原三騎っていうキャラクターが出てきますよね。番長にボコボコにされる役で。
植地　あと聖レイ先生の『劇画バカ一代』。梶原が逮捕された当時に発表されたんですよ。それが5、6年前の「デラべっぴん」のエロ劇画特集に載ったんですけど、梶原が裏でどんなあくどい、エロい行為をしたかというのが、全て梶原風ナレーションで構成されてるんですよ。誰か知ったら殺されますよ絶対。
相良　作品集に入ってると思うんだけどまだ未確認なんだよね。笠倉かサン出版から出てると思うんだけど。
植地　劇画原作者Kって名前で描かれてるんですけど、ぶらさがり健康機に女をぶら下げて浣腸をするとか、そのナレーションが「Kは、ぶらさがり健康機に女をぶら下げて犯すと健康になることを知っていたのだ」とか書いてある（笑）。これは非常にヤバい作品ですね。話ズレましたけどね。
相良　じゃあ『レッツ・ダチ公』とか『男旗（だんき）』、あの辺の話をしますか。
植地　今回の第二弾をやる時に、梶原は第一弾でやり尽くしちゃったんで、今残ってるマンガの中でどれだけエキストリームなものが残ってるかという、その中でこの2本を発見したわけです。とにかく凄いんですよ。顔もいいんですけど、とにかく描写が熱いんですよね。人間はもちろん、出てくるドーベルマンの顔まで不良っぽい（笑）。他にもこんなのもあるんですけど。
宇田川　月刊漫画「男」。これどこから出てるんですか。
植地　オハヨー出版。執筆陣がまず政岡としや先生。グラビアがいきなり「男を探る・高倉健」ですから（笑）。
相良　ちなみに『マンガ地獄変』の愛称が決まったんですよ、「マンヘル」に。で、キャラクターがコレ。「マンヘルくん」（笑）。
大谷　で、次にこれが、マンガに初めて「パチキ」って言葉を導入した石山東吉先生の『男旗』。
宇田川　この人は誰かの弟子ですか。
植地　車田正美！　神輪会出身！
大谷　この人最近チャンピオンで『じゃんじゃんバリバリ』ってパチンコマンガ始めたんですよね（笑）。
相良　少年読者はパチンコ出来ないだろうって（笑）。
植地　しかも今、パチンコはコンピュータとかROMの時代なのに、この人は飽くまでも釘と玉にこだわってるんですよ。
宇田川　『釘師サブやん』の世界。
植地　全然変わってない（笑）。石山先生は90年代男魂マンガ家を代表する作家ですね。
宇田川　でも今後、男魂系はいなくなるっていう話もあるよ。
相良　あ、じゃあ宇田川さん。もうさっきから話したくて話したくてしょうがなかったんでしょ（笑）。「チッ」とか言ってたでしょ（笑）。まず男魂とは何でしょう宇田川さん。
宇田川　「男魂」とは男の魂であると同時に男の根っこであるんですよね。
相良　ああ、その言い方、一見インテリ臭く感じますね。根っこって何ですか。
宇田川　だから男のルーツですよね。要するにそそり立ってるものですよ。
吉田　「人間兇器」ですね。
宇田川　ある時にはそうですね。だから…何でしたっけ。ふくしま政美なんですよ（笑）。
相良　ああ、そうですか。その話はいいです（笑）。大谷くん、何か持ってきてるんだっけ。
大谷　これ、『Be-Bopハイスクール』の映画版です。コミックサイズのムックっぽい作りなんですけど。
植地　これオレが拾ったんですよ。渋谷の駅のゴミ箱で。正にトラッシュ・コミックでしょ。本来の意味そのままの（笑）。『Be-Bop』って恐ろしいほど売れたんですよね。
相良　初版50万部でしたっけ？
植地　ていうことは最低50万人は読んでるんですよ。
大谷　映画もそのぐらいは観てるかも知れない。当時の中高生に与えた影響は多大なものがありますよね。
植地　ただこういう、「バリバリ！　ハングオンだぜ！」みたいな内容の本が確実に消費されてたって事実を、皆なかったことにしようとしてるでしょ。それは良くないなと（笑）。南京大虐殺だってなかったことにしちゃいけないのとおんなじで。
相良　人間とか東松山とかドーナツ化現象の外の文化ですよねこれは。
宇田川　今はこういう不良モノって何があるの？
大谷　ヒットしたものだと『ろくでなしBLUES』とかがあるんですけど。
吉田　でも結局、番長とは離れて、ボクシングとか入っちゃうんですよね。
植地　結局、色々な要素を混ぜないと番長モノが成り立たなくなっちゃったんですよね。
大谷　ケンカして一番になることに、誰も価値を見いださなくなったんでしょうね。だったらそのへんの可愛い子をコマしてよろしくやりたいぜみたいな、ナンパ不良が主流になってきて。『湘南純愛組』とか。
植地　今の「マガジン」路線ですよね。
大谷　だから純粋な番長モノって買ってないですね。
ガロ　あ、ビール切れたから買ってきますね。ちょっとコアな話に頭痛くなってきたし（しばし退席）。
植地　今回、『地獄変2』でたがわ靖之先生のインタビューをやったりして思ったのは、この先、マンガを読みたいっていう衝動に対してきちんと答えてくれるのはブルーカラーマンガだけなんじゃないかと思うんですよ。
宇田川　「ガロ」の読者がまず読まないような（笑）。
植地　というか、僕たちマンヘルが求めてるマンガ。
吉田　普通「ガロ」と「ゴラク」は併読しないからね。
大谷　「ガロ」と「ゴラク」を両方マジで併読してるっていったらそれは…（笑）。
宇田川　でも「ゴラク」の小島剛夕と小山春夫がさ、「ガロ」で『カムイ伝』描いてたし、花輪和一だって「ヤンコミ」に描いてたじゃない。「ガロ」は原稿料出ないところだけが問題でしょう。だから梶原一騎だってふくしま政美だって描かないですよね。何故長井勝一はふくしま政美を認めなかったのかと言いたいね。
相良　なんかガロ編さんがビール買いに行ってるからってメチャクチャ言ってません（笑）？　ふくしまとはたまたま接点がなかったからじゃないですか？
宇田川　でも真崎・守は青林堂から自選集出してるじゃない。何で政美はないのかね。
相良　帰ったらガロ編さんに追及して下さい（笑）。
宇田川　男魂って言えば横み路線もあったよね。横山まさみち。どうですか相良さん。
相良　はい。今日は『やる気まんまん』の旧版をお持ちしました。今出てるものと違うんですよ。講談社版で。

QJマンガ選書
赤田祐一氏に訊く

このコーナーではコラム的に復刻マンガを手掛けている出版社や個人4、5人に話を聞く予定であったが、何か座談会がオニのような文字数になってしまい、ほとんど取り上げられなくなってしまった。とりあえずQJマンガ選書を立ち上げた太田出版の赤田祐一氏に話を伺ったのでどうぞ。

「シリーズ化したのは、『人間時計』が予想してた以上に売れたんで、それをキッカケに、埋もれてたマンガにもう一度光を当てられたらいいなということで。その方面に詳しい米沢義博さん、竹熊健太郎さんにブレーンになってもらって今後は月イチぐらいのベースで『QJ』と連動して出していく予定です。特にこれまで評価が定まってないモノ、白川まり奈の『どんづる円盤』とか徳南の青春モノ、ふくしま政美の『聖マッスル』とか、評論家の歯牙にも懸けられなかったものを出したいんですよ（笑）。こういうものってグルーピングされにくいというか、どう評価していいか分からない…その時代に、どういう理由で描かれたとか全然分からないんですよね（笑）。もちろん、そういうモノの間に楠勝平さんとかいわゆる名作も混ぜていきたいんですけど」

「コンセプトを理屈っぽく言えば、これはジョン・ウォーターズがどこかで言ってたらしいんですけど、オーソン・ウェルズから始まる映画史じゃなくて、ラス・メイヤーとかH.G.ルイスから始まる映画史が必要なんだっていうことを力説してて、それはちょっと頭のどこかにありますね」

「こういった復刻本って、過去に手を出したところは各社皆失敗してるんですが、同じ轍を踏まないようにとは思ってます（笑）。ただこれは僕の私見ですけど、これまでのマンガ選書っていうのは割と教養コンプレックスというか、文芸コンプレックスに依拠してる感じがするんですね。もう一つのパターンとしては何万円もする豪華な復刻版。これはもう限られたマニア向けですよね。QJマンガ選書は高校生、大学生を対象に出していきたいんで、彼らにとってみれば徳南晴一郎氏の作品なんて新刊と同じだと思うんですよ。だから平均すると2000円以内くらいで、装丁も現代的にして、ポップな感じで出したいんですよね」

QJマンガ選書第1弾としては、水木しげるの「悪魔くん」、風忍の「ガバメントを持った少年」が現在発売中。尚、QJマンガ選書のラインナップとして、「消えたマンガ家」でも取り上げられた「ドリーム仮面」（ジャンプに73年から連載）の復刻が計画されている。長崎県出身の作者・中本繁氏の消息をご存じの方はQJ編集部（☎03・3359・6281）までご連絡を。

▲QJマンガ選書第一弾、水木しげる永遠の名作、東考社版『悪魔くん』。同時発売は風忍『ガバメントを持った少年』。どちらもマスト！

TRIO冒険王書房 三田隆司氏に訊く

今年4月に発行されたTRIO冒険王書房の写真目録「MQ」。全206頁の内、実に147頁が完全写真目録という、一古書店の目録としてはケタ外れの労作。しかも商品は新東宝のスチールからストリップショーチラシコレクション、清水崑のカッパバッジセットあり、ピンクレディの怒濤のコレクション一括売りなど、もうゴミの嵐（失礼）。ただ、こういうものも集まると凄みがあるというか、もう立派な文化に見えるのが不思議。ヘタなムック本何冊分かのネタが詰まっていると言ったら褒めすぎか。冒険王というとかつてはマンガの自家目録「漫録」を出しており、レベルの高さは古くからのマンガマニアならご存じの通り。そのマンガを主力商品から外してまでブロードウェイに移った店主の三田氏曰く「まんだらけ古川氏が東宝スコープ若大将シリーズとするならばこちらはジャンクフィルム新東宝ぼんシリーズ」…ってそのセンス買ったァッ！ というわけで、マンガとは関係ないがTRIO三田氏に、トラッシュな視点について居酒屋でちょっと呑みつつ伺った。

「『ぼんシリーズ』って、高島忠夫が新東宝でやってた若大将風の凄いダサイやつ（笑）。『MQ』では『トラッシュカルチャー』なんて打ち出してるけど、古本ってもともとトラッシュなんだよね。それを写真入りで不特定多数の人に向けて配ると何か新しく見えるのかも知れない。やり方としては、実はオーソドックスなつもりなんだよ。マンガはまんだらけの目録でやり尽くされちゃった感じがあるから、もう古本でこれから発掘されるのはないよ。マンガ以外でインパクトのあるものをやりたいんだよね。そうするとどこも相手にしないようなモノをやればいいわけ。だから計算してやってる方がやって面白いの復刻とかやるより自分で面白いものを見つけてくる方がいいわけ。マンガし。映画の宣材なんかおもしろいでしょ、フェイクな感覚が。もうウソ八百並べ放題。そこがイイんだよね。『驚天動地の爆笑大スコール！ 太陽社長の頭からギャグの稲妻!!』とか、とりあえず勢いあるけど意味ない（笑）。でも見ててウキウキするじゃん。実際は中身ショボくてつまんない映画なんだろうけど…（笑）。マンガは変なブームになっちゃってるでしょう。結構投機目的になってるのはつまらないんだよね（笑）」

「MQ」の次号は来春を待て！

▲これが問題の「MQ」。古書マニアはもちろん、編集者や作家からもかなりの注文があるというが、内容を見て思わず納得。

今の版は主人公が神能数馬っていうんですけど、これは泊蛮平…この頃からすでにシンボルはオットセイなわけです。牛次郎先生原作。

植地　牛次郎先生…自分の息子がいじめられてるのを救ったという『いじめと闘う』という活字本を出した。あれ凄い熱い。「俺は俺の息子をいじめた生徒に指を詰めろと迫った」とか「教師は皆クズだ」とか。

相良　何か話収拾つかないですが、とりあえずいいか、記事にするのはガロ編さんだから（笑）。今ビール買いに行ってるけど。じゃ次、番長ふきだまり、卒業後の社会に放たれた番長どもに行きましょう。

植地　『野望の王国』行きましょう。雁谷哲先生原作。作画・由起賢二。

宇田川　番長が社会に出ると野望の王国になるんでしょう。

植地　そうです。これは『男組』の神竜と流が大学に進学したらこうなるんじゃないかと思うんですけど。描写も凄いんですよね。「イヤヤヤヤアアアッ！」みたいな対決シーンとかコレ。

宇田川　『アストロ球団』的だよね。ああ、政美的なパンチもありますね。あっ、これ、これだタコ殴り！タコ刺し！　この描線ってこの作者独自のものだよね。この人の濃い描写って凄いよね。この人の、意識が飛んだときの顔の描写って、狂ってていいよ。サイコな描写が凄いよ。

ガロ　（ガロ編戻る）いやー時間かかっちゃてスイマセン。日曜だから近くの酒屋閉まってて。ビールどうぞ。

相良　ああ帰ってきた。呆れ返って帰っちゃったのかと思いましたよ（笑）。

宇田川　あのね、宮谷一彦とか「ガロ」に描いてたでしょう。なんで描かなくなっちゃったんですか。

ガロ　えっ？　いきなり何ですか？　宮谷さん？　いつ頃描いてましたっけ。

宇田川　78年。

ガロ　俺全然いないっスよそんな頃。話フらないで下さいよ。もう今日の話の内容全然分かんないんだから俺（笑）。いいよもう何でも。放っといて下さい！

相良　ああ、いいのいいの。もう無視して下さい（笑）。大谷くん、次いっちゃって下さい。チャモコミ系。ちなみにマニアの間では、「コロコロ」とか「ボンボン」に載ってたマンガを「チャモコミ」って呼ぶんですよね、先生！

大谷　ええ、「チャモコミ」っていうのは「オモチャ箱マンガ」の略で、「コロコロ」とか「ボンボン」あたりのガキ向けプログラム・コミックを指すんです。で、これ、国友やすゆき先生の『激メカライダー陽太　ゴーゴーローラーコースターの巻』。「巻」ったって一冊で終ってるんですけどね（笑）。

相良　どこが「巻」なんだって（笑）。

大谷　何が凄いってこれジェットコースターに乗るだけ。それで勝負なんですよ。

植地　絶叫マシーンブームで出てきたんでしょ。

大谷　そう。突然「世界ローラーコースター選手権」っていうのが行なわれて、世界中の子どもが拉致されて訓練させられるわけですよ。何するのかと思ったらジェットコースターに乗ってるだけ（笑）。

植地　楽しいじゃねえかオイという（笑）。

大谷　砂漠かなんかでジェットコースターに乗せられてるんですが、竜巻が起こってみんな壊れちゃうんですよ。でも主人公の良太はローラーコースターごと竜巻と逆回転を始めて、竜巻を消してしまうという…どうやったんだ！（笑）「100てんコミックス」っていう、コロコロの亜流で出たんですが。

植地　「ガロ」的にはチャモコミとかどうなんですか？

ガロ　いや、だから……。

相良　でも青林堂のQさんとか「『ヤンマガ』とかやっぱり面白いですね。ちゃんとストーリーあって」って言ってましたよ（笑）。

ガロ　ああもう…。

男性器・女犯ゲリオン!!

（一同好き放題言いまくり聞き取り不能につき、この後5分間の会話省略）

宇田川　……だから何が言いたいかっていうとね、男魂マンガっていうのは時代を超越してるから梶原一騎の作品にしても、自分の作品をカットアップしてるわけよ。だから『人間兇器』がわけが分からないのはなぜかっていうと、梶原が自分の作品の完成を自ら拒否してるわけ。そういうモノって最近あるじゃないですか（トーンが高くなる）!!

吉田　ないですよ（笑）。

宇田川　ある！「エヴァンゲリオン」ってのが!!

一同　ははははははははははは。

吉田　あ～あ、言っちゃった（笑）。

宇田川　そうやって完成を拒否して、見る者に「補完」なんてことをやらせていくって手口、既に梶原がやってるんだよ！

植地　（笑）そうですよね。梶原が「エヴァ」。

相良　「エヴァ」ってどういうエヴァよ？　えばってるエヴァじゃないの？（笑）

吉田　納得行かないぞー（笑）。

植地　いや『新・カラテ地獄編エヴァンゲリオン』なわけ。

宇田川　だから船井が言ってるでしょう。頭の中に脳内麻薬出してるその雑誌が「エヴァ」！　梶原は僕らの頭の中を気持ちよくしてくれるじゃないですか！

植地　そうそう。大体「エヴァンゲリオン」ってタイマンじゃないですか。

吉田　何で（笑）？

植地　使徒と蹴りあって、殺しあって（笑）。使徒って要するに大山倍達なんですよ。だから庵野秀明は、口では宮崎駿がどうとか、永井豪がどうとか言ってるけど、心の底では梶原一騎ですよ。

宇田川　彼は絶対、梶原とかジョージ秋山好きですよ。『ザ・ムーン』テイスト入ってますよね。

相良　でも『ザ・ムーン』のロボット、ちゃち過ぎません？（笑）

宇田川　え？　エヴァンゲリオンのどこがかっこいいんですか？　僕にはちゃちいとしか見えませんよ！

一同　わはははははははははははは。

宇田川　あんなの体型が女犯坊と一緒じゃない。まだ同人誌「女犯ゲリオン」の方がいいよ（笑）。

吉田　ネコ背で（笑）。

相良　はははははは。先生、ムチャクチャ飛ばしてますね（笑）。

吉田　酔っぱらってますよ先生。

宇田川　「男性器・女犯ゲリオン」！　梶原のね、ダークになる前は分かったんだけど、その前ってのは童貞至上主義でしょ。

吉田　ああ、星にしても、矢吹にしてもね。

宇田川　ストイックでしょ。ああいう、溜めに溜めるってのはどういうことなんでしょうね。

吉田　自分とは正反対のことを描きますよね。

宇田川　でもそれっていいですよね。子どもにとって素晴らしい作品を描く人が日常生活で目茶苦茶なことをやっててもいいわけだから。だから梶原一騎と高森朝雄が一つになったということで、完成したわけですよ。

吉田　補完ですね。

宇田川　補完ですよ。その歩みの中で梶原の命が絶たれてしまった。だから我々読者は梶原の神話を作って、常に補完の試みを続けなきゃならないわけです。エヴァ以前に、僕たちは梶原を補完してたわけです。

吉田　僕らゼーレですか。

宇田川　そうですよ。梶原一騎補完計画。だから……男魂とは…何でしょうね。男性器…男性紀・女犯ゲリオンであり…。

相良　タマタマ主義であり…。

大谷　玉の人だったんですよ、梶原先生は。サオの人じゃなくて。

植地　源ね。

相良　男とは、脳ミソのシワをためるんじゃなくて玉のシワをためるべきだ！　と訴えたいですね。

宇田川　要するに梶原の放った魂というものが今も死なずに浮遊してててね、色んな所で…（中略）…アジアのヘンな特撮モノ、「インフラマン」とか全部そうですよ。つまり梶原はエライと…何だかよく分からないですけど（笑）。

相良　アンタ今まで喋っといてそれかい（笑）。…もう次行きましょう。今回はトラッシュ・コミックっていうくくりなんで、皆さんなりのトラッシュ・コミックの楽しみを。

宇田川　まず、つゆき・サブローの描いた『寄生人』っていいですよねコレ。兎月書房が水木しげるが抜けた後に水木のかわりに描いたもので、とんでもないヘタクソな絵。主人公がサラリーマンで、こまどり姉妹のファンなんですよ。で「俺も双子になりたいなあ」って易者のバアさんに言ったら、バアさんが「あんたも双子にしてやるよ」って主人公の身体に寄生人を寄生させて、最後に彼の身体を破って出てくるという。

相良　ボディ・スナッチャーなんだ。

宇田川　でも絵がひどいし、なにしろこまどり姉妹の顔なんか写真を切り抜いて貼っただけ。ホントにトラッシュ。兎月の末期ってクルってますよね。竹内寛行『墓場鬼太郎』！　燃えますね。ネズミ男すぐ死んじゃうし。

植地　じゃあ宇田川さん的にはトラッシュ・コミックってその辺に位置するわけですか。

宇田川　誰も相手にしない、古本屋で安く売ってる貸本マンガね。

吉田　最近、その辺も高いですけどね。

宇田川　そういうコミックを私は「ガレージ・コミック」と言ってるんですよ。ガレージ。

吉田　ガレージ・パンクみたいな。

宇田川　そう。肉弾は「エキストリーム」。『ザ・ムーン』とか『地獄くん』は「トラウマ」ですよね。こういう貸本系はガレージという名前を勝手につけましたんで、皆さん使って下さい。

植地　貸本は確かにガレージですよね。

宇田川　だからアレですよね。誰も評価しないで古本屋で安くて、芸術的だなんて言われないマンガがいいですよね。下品で。読んでると恥ずかしいっていうもの。

植地　だから僕はブルーカラーマンガを真剣に読んでるんだと思います。トラッシュ・コミックっていうのは、そのまま拾子が売ってるマンガですよ。

宇田川　でも拾子ルートってレアだよね。大阪××地区なんかに行くと必ず政美の『女犯坊』が載ってる「増刊エロトピア」なんかが20年の歳月を経てキレイな状態で出たりするわけ。だからいわゆるドヤ放出モノってのがあると思うんですよね。だからこれからはそういう拾子ルートもチェックするべきですよね。

植地　真のトラッシュですよね。

相良　古本ってやっぱりカタログ買いはつまんないですよ。足使ってる方がヘンなもの見つけちゃうでしょ。

宇田川　激レアなものっていうと…やっぱり非常にプアな…。

相良　プアって（笑）。

宇田川　プアなものがリアリティをもっている場所に行って、自分がその中にダイヴして探さないと見つからないんですよ。

相良　ダイヴって（笑）。

宇田川　マージナルなものはマージナルなところを探せと。だから結局何を言いたいかというと、貧困とか差別とか、今はもう目を背けてしまっているものがマンガの中にあった時代、そういうものをもう一回見なきゃいけないんです。そういうマンガこそ封印を解き放って、ゾンビコミックを蘇らせなきゃいけないんですよ。

相良　何か「プアなものがリアリティをもっている場所」とか回りくどい言い方ありがとうございます。じゃあ植地くんは。

植地　トラッシュ・コミックっていうと、僕が一言言いたいのは、やっぱりたがわ靖之先生ですね。この人の凄いところは、本人が自分はトラッシュ・マンガ家だって認めてる（笑）。インタビューに行った時も、「なんでこんなマンガ読むんだ。アンタらおかしいんじゃないか」って言うんですよ。描いてるアンタはどうなんだって（笑）。その中でも芳文社コミックスの『夜の料理人』。これはイチ押しです。表紙がいきなり女体盛りですよ。

相良　これ料理モノ＋『ハングマン』なんですよ。

植地　悪モノを包丁とか使って成敗するわけ。必殺シリーズも入ってますね。「食えないネタでも料理する、夜の料理人とはこの俺だ」ってカッコイイんですよ。これはもう読みごたえあり過ぎ！　これこそトラッシュ！　まだ書店で手に入りますから絶対買って下さい！

吉田　間違っても「ガロ」には描かない人だけど（笑）。

相良　ああ…何かオレ眠くなったから寝る（相良・10秒で本格的睡眠に移行）。

宇田川　あっ！　そう言えばケン月影の話してない。

植地　ムーン・シャドウ・ケンの話してませんね（笑）。

宇田川　天才だよね。異物挿入ね。

植地　あと覗き、それから出歯亀…それから醜女ね。

大谷　醜女…「それから醜女」って…（笑）。

吉田　あとトラッシュと関係ないですけどジョージ秋山先生の『ばらの坂道』。

植地　山野一先生の『四丁目の夕日』を読んでる方は必読。なぜかは具体的には言いませんが（笑）。

大谷　あと僕、これこそトラッシュというものをお持ちしました。コレ。『高橋名人物語』！　それから『你好！キョンシーくん』！　こういうモノに今、光を当てておかないとあと10年後、20年後には絶対残らないでしょう。

宇田川　再評価は30年後でしょうね。

ガロ　えぇーとですね、…この辺で既に話は4時間近く続いてるので…。

宇田川　で、政美の『聖徳太子』がね……。

（この後、さらに2時間続きますが、ヤバ過ぎるのと下らな過ぎるので省略いたします）

97年5月11日・水声社ビル48FV-Pルーム「鳳凰の間」にて収録

文責・浅

▲熟睡する司会者。